

第3章 奈良市の高齢者の現況

1. 高齢者の現況と今後の見込み

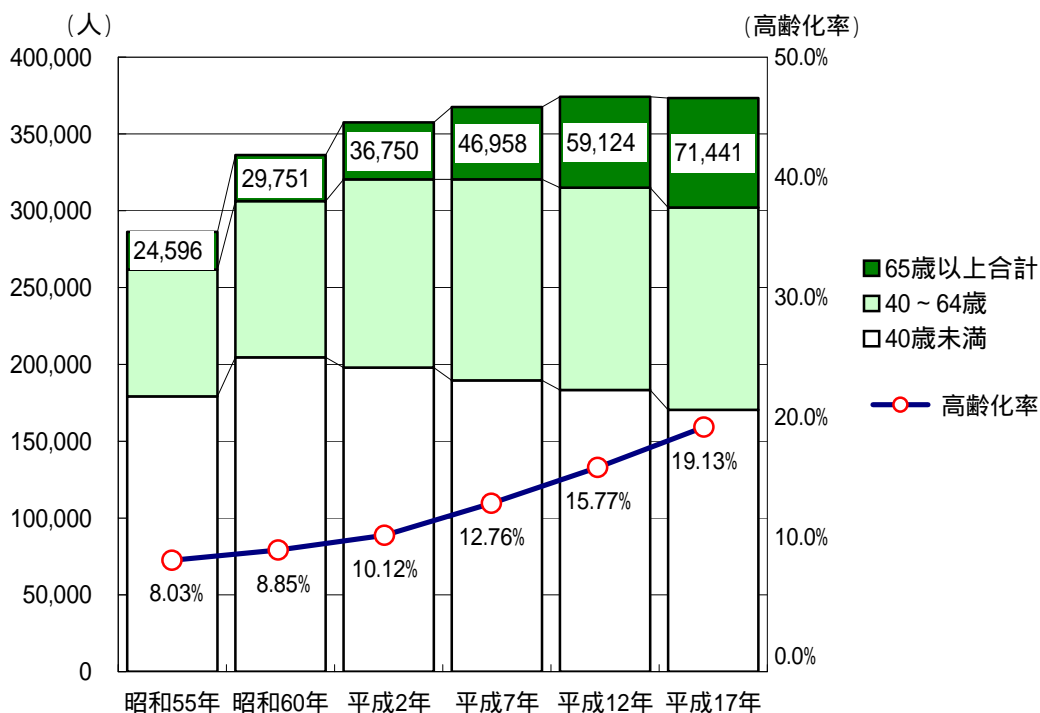
(1) 人口構成の推移

本市の総人口（旧月ヶ瀬村、旧都祁村を含む）は昭和55年の306,393人から平成12年まで増加を続け、374,944人となっていますが、平成17年では373,383人と減少しています。

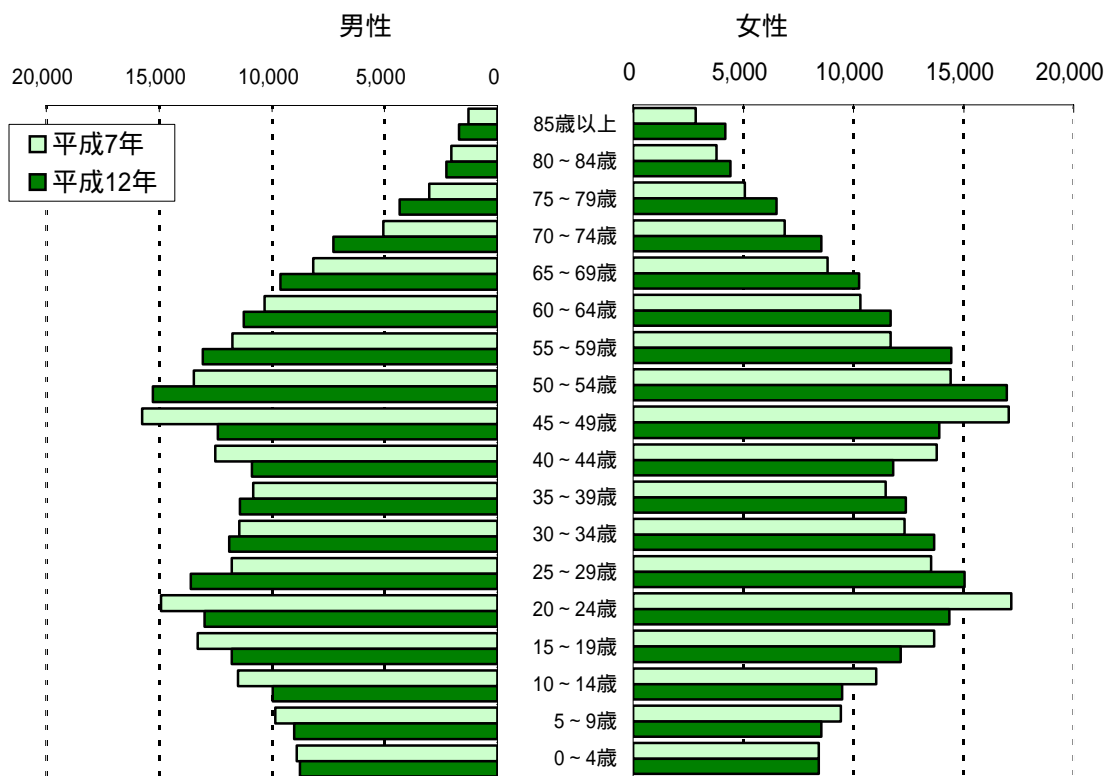
一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加を続け、平成17年では71,441人に達しており、高齢化率は19.13%となっています。

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
40歳未満	179,141	204,660	197,728	189,507	183,424	170,395
40～64歳	82,466	101,772	122,825	131,073	131,630	131,547
65歳以上合計	24,596	29,751	36,750	46,958	59,124	71,441
前期高齢者	16,215	18,091	21,614	28,927	35,691	40,585
後期高齢者	8,381	11,660	15,136	18,031	23,433	30,856
年齢不詳	20,190	128	5,790	501	766	0
総人口	306,393	336,311	363,093	368,039	374,944	373,383
高齢化率	8.03%	8.85%	10.12%	12.76%	15.77%	19.13%

資料は国勢調査より。但し、平成17年は住民基本台帳(10月1日時点)を基にしています。旧月ヶ瀬村、旧都祁村を含みます。



平成7年と平成12年男女別年齢階級別人口分布比較



年齢不詳分は除外しています。

資料:国勢調査

(2) 計画期間における人口推計

平成7年と平成12年の国勢調査人口をもとに、計画期間の人口を推計した結果、下表のとおりとなります。

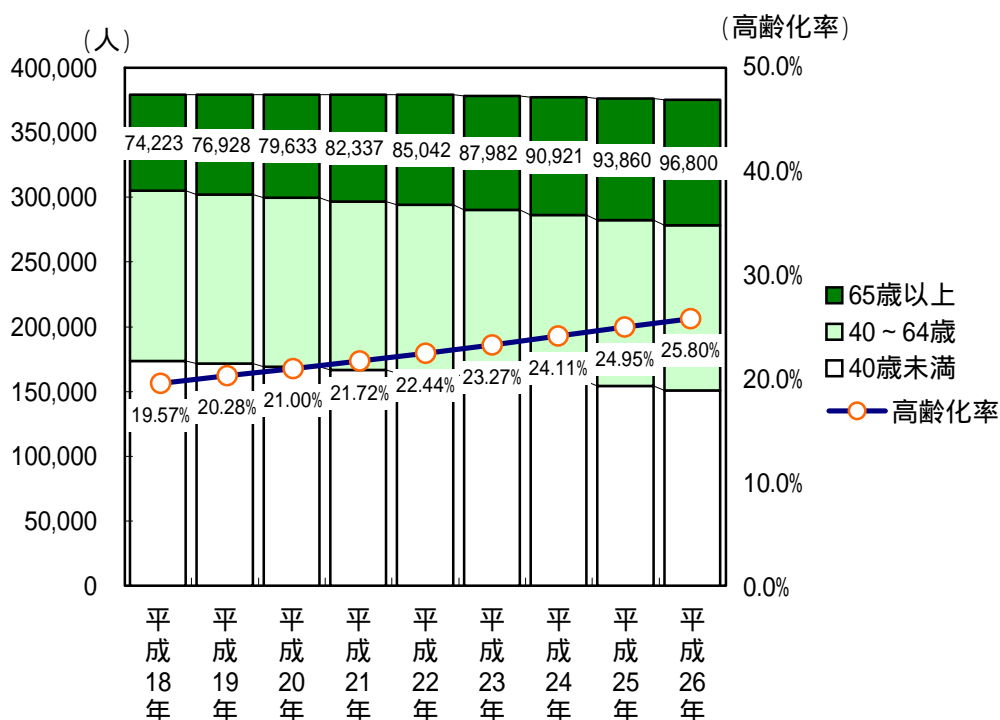
本市の総人口は年々減少し続け、平成20年で379,178人、平成26年では375,208人になると見込まれます。

一方で、65歳以上の人口は増加し続け、平成20年で79,633人、平成26年で96,800人、高齢化率は平成20年で21.00%、平成26年で25.80%にまで達する見込みです。

単位:人

	推計値								
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口	379,330	379,254	379,178	379,102	379,026	378,072	377,117	376,163	375,208
40歳未満	173,704	171,352	169,001	166,649	164,297	160,959	157,622	154,285	150,947
40～64歳	131,402	130,973	130,545	130,116	129,687	129,131	128,574	128,018	127,461
65歳以上	74,223	76,928	79,633	82,337	85,042	87,982	90,921	93,860	96,800
前期高齢者	41,864	43,060	44,256	45,451	46,647	48,212	49,776	51,341	52,906
後期高齢者	32,359	33,868	35,377	36,886	38,395	39,770	41,145	42,519	43,894
高齢化率	19.57%	20.28%	21.00%	21.72%	22.44%	23.27%	24.11%	24.95%	25.80%

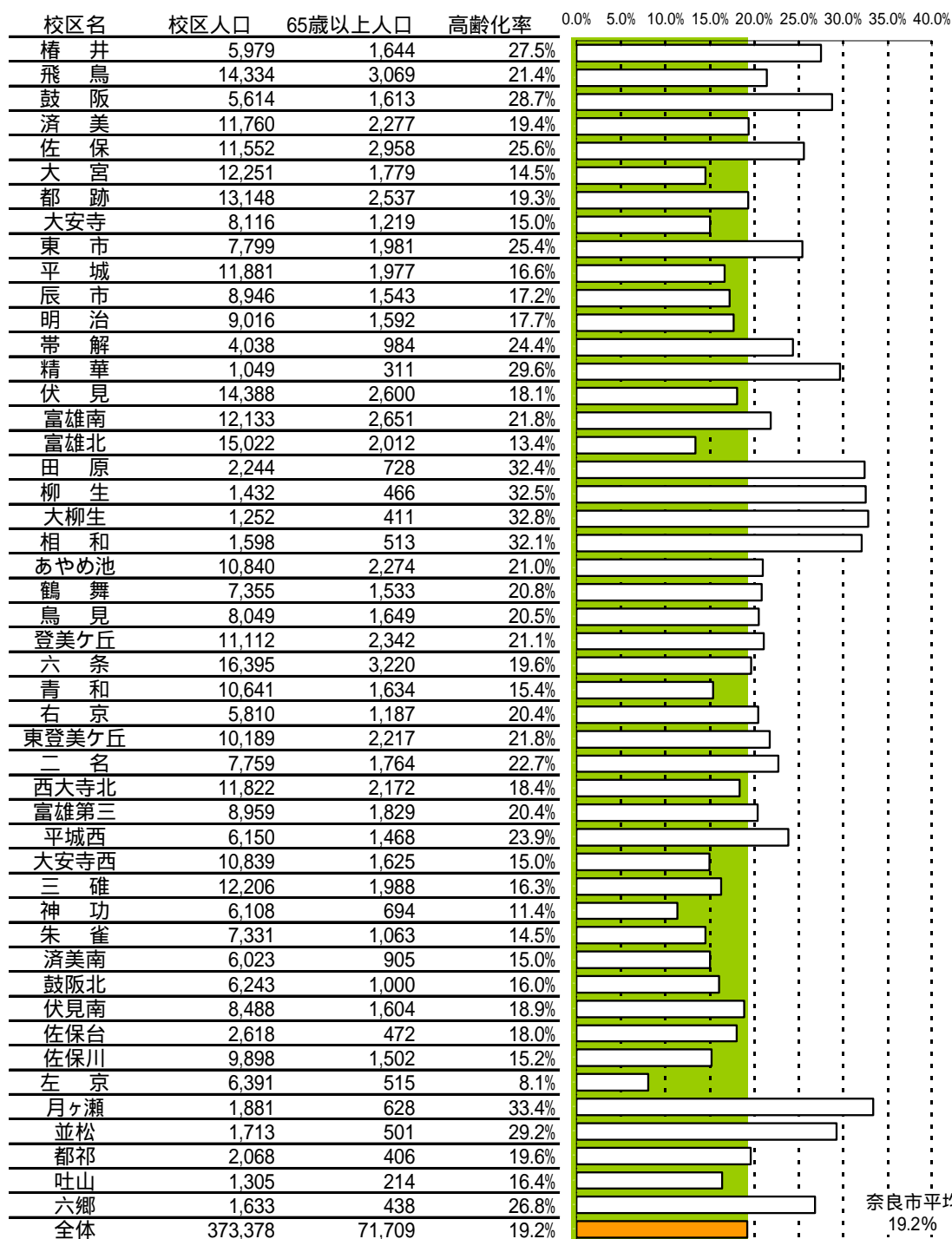
推計方法: コーホート要因法



*コーホート要因法: 人口推計の手法として一般的に用いられる手法で、人口を年齢別に5歳毎の階層(コーホート)に分け、各階層が1年後にどれだけ増減するかを確率として計算するもの。

(3) 校区別高齢者の状況

市内の高齢化率を校区別に見ると、田原、柳生、大柳生、相和、月ヶ瀬ではいずれも30%を上回っている一方で、左京では10%を下回っている状況であり、地域によって高齢化に大きな差がみられます。



平成17年11月1日現在

(4) 老人保健対象者の受診状況

平成16年度の老人保健診療費は総額で約251億円と減少傾向にありますが、一方で1人当たり診療費は656,727円と増加傾向にあります。

老人保健診療費の状況(各年3月～2月ベース)

		単位	平成14年度			
			入院	入院外	歯科	計
年度別	件数	(件)	28,627	672,876	74,836	776,339
	日数	(日)	514,119	1,563,467	186,361	2,263,947
	診療費	(千円)	11,614,050	11,839,092	1,285,064	24,738,206
1人当たり診療費		(円)	285,259	290,786	31,563	607,608
		前年比	(%)			
受診率		(件/100人)	70.31	1,652.68	183.80	1,906.79
		前年比	(%)			
1件当たりの日数		(日)	17.9	2.3	2.4	22.6
		前年比	(%)			
1日当たり診療費		(円)	22,590	7,572	6,895	37,057
		前年比	(%)			
1件当たり診療費		(円)	405,702	17,594	17,171	440,467
		前年比	(%)			
対象者数		(人)	40,714			

		単位	平成15年度				
			入院	入院外	歯科	計	
年度別	件数	(件)	29,187	660,401	74,176	763,764	
	日数	(日)	527,424	1,488,837	179,636	2,195,897	
	診療費	(千円)	12,985,115	11,374,867	1,190,556	25,550,538	
1人当たり診療費		(円)	326,628	286,124	29,947	642,699	
		前年比	(%)	+14.5	-1.7	-5.2	+5.7
受診率		(件/100人)	73.41	1,661.17	186.58	1,921.16	
		前年比	(%)	+4.4	+0.5	+1.5	+0.7
1人当たりの日数		(日)	18.0	2.2	2.4	22.6	
		前年比	(%)	+0.5	-4.4	+0.0	+0.0
1日当たり診療費		(円)	24,619	7,640	6,627	38,886	
		前年比	(%)	+8.9	+0.8	-3.9	+4.9
1件当たり診療費		(円)	444,893	17,224	16,050	478,167	
		前年比	(%)	+9.6	-2.2	-6.6	+8.5
対象者数		(人)	39,755				

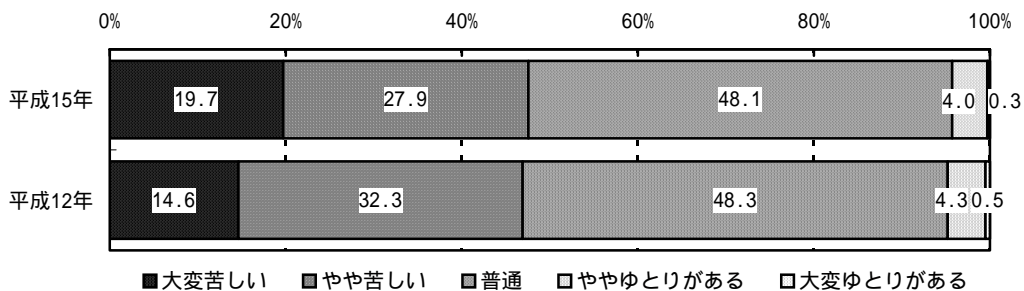
		単位	平成16年度				
			入院	入院外	歯科	計	
年度別	件数	(件)	29,176	645,272	72,991	747,439	
	日数	(日)	529,678	1,439,655	174,124	2,143,457	
	診療費	(千円)	12,818,793	11,184,288	1,116,127	25,119,208	
1人当たり診療費		(円)	335,140	292,407	29,180	656,727	
		前年比	(%)	+2.6	+2.1	-2.6	+2.1
受診率		(件/100人)	76.27	1,687.02	190.83	1,954.12	
		前年比	(%)	+3.8	+1.5	+2.2	+1.7
1人当たりの日数		(日)	18.1	2.2	2.3	22.6	
		前年比	(%)	+0.5	+0.0	-4.2	+0.0
1日当たり診療費		(円)	24,201	7,768	6,409	38,378	
		前年比	(%)	-1.7	+1.6	-3.3	-1.4
1件当たり診療費		(円)	439,360	17,332	15,291	471,983	
		前年比	(%)	-1.3	+0.6	-4.8	-1.3
対象者数		(人)	38,249				

資料：国民健康保険及び福祉医療事業状況

(5) 全国の高齢者の経済生活

高齢者世帯の生活意識

「大変苦しい」が平成12年から平成15年の間に大きく増加しています。



資料: 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成12年、平成15年)

(注) 高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいいます。

高齢者世帯の所得

世帯人員一人あたりの平均所得金額は、平成11年から平成14年の間に約23万円減少しています。

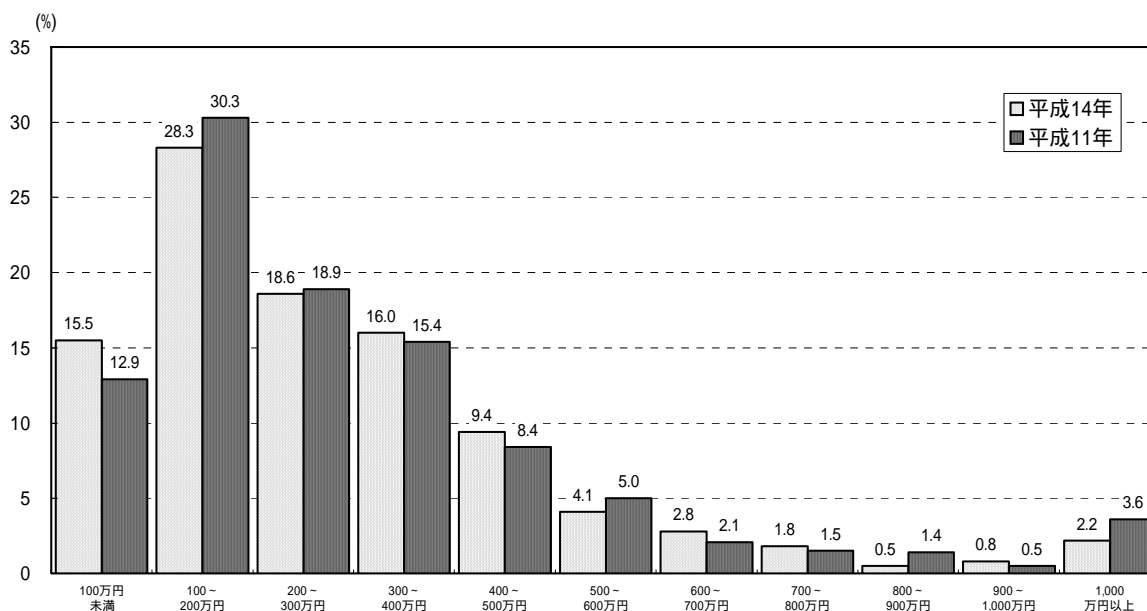
	平均所得金額	
	一世帯あたり	世帯人員一人あたり(平均世帯人員)
平成14年	304.6万円	196.1万円(1.55人)
平成11年	328.9万円	218.7万円(1.50人)

資料: 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成12年、平成15年)

(注) 高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。

高齢者世帯の年間所得の分布

高齢者世帯の年間所得の分布を見ると、平成14年では100～200万円が28.3%と最も高くなっています。平成11年と比較すると、全体的に所得が低下している傾向にあります。



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成12年、平成15年)

(注) 高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。

2. アンケート調査及び奈良市民意識調査結果について

(1) アンケート調査及び奈良市民意識調査結果の活用

アンケート調査については、平成17年7月29日から同年8月19日を調査期間として、40歳以上の市民を対象に実施し、その結果を活用しました。なお、配布・回収の状況については、下表のとおりです。

また、幅広く市民の意見を反映させるため、平成17年7～8月に20歳以上の市民の方を対象に実施した奈良市民意識調査結果の一部を活用しました。

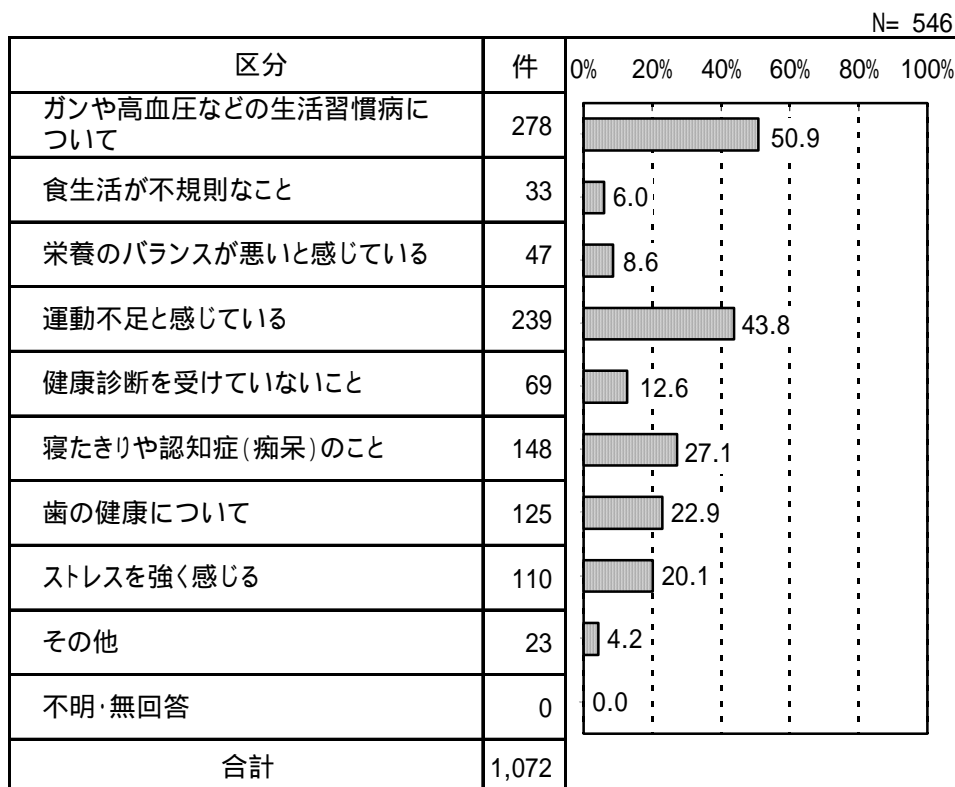
アンケート調査の配布・回収状況

調査対象	要支援・要介護認定を受けていない方で年齢が40歳以上65歳未満の方から無作為で1,500人を抽出	要支援・要介護認定を受けていない方で年齢が65歳以上の方から無作為で2,000人を抽出	要支援・要介護認定を受けられた方から無作為で3,000人を抽出
配布数	1,500人	2,000人	3,000人
回収数	770人	1,366人	1,951人
回収率	51.3%	68.3%	65.0%
有効調査票数	768件	1,361件	1,951件

(2) 調査の結果の概要 (40歳以上65歳未満)

健康について不安に感じていること

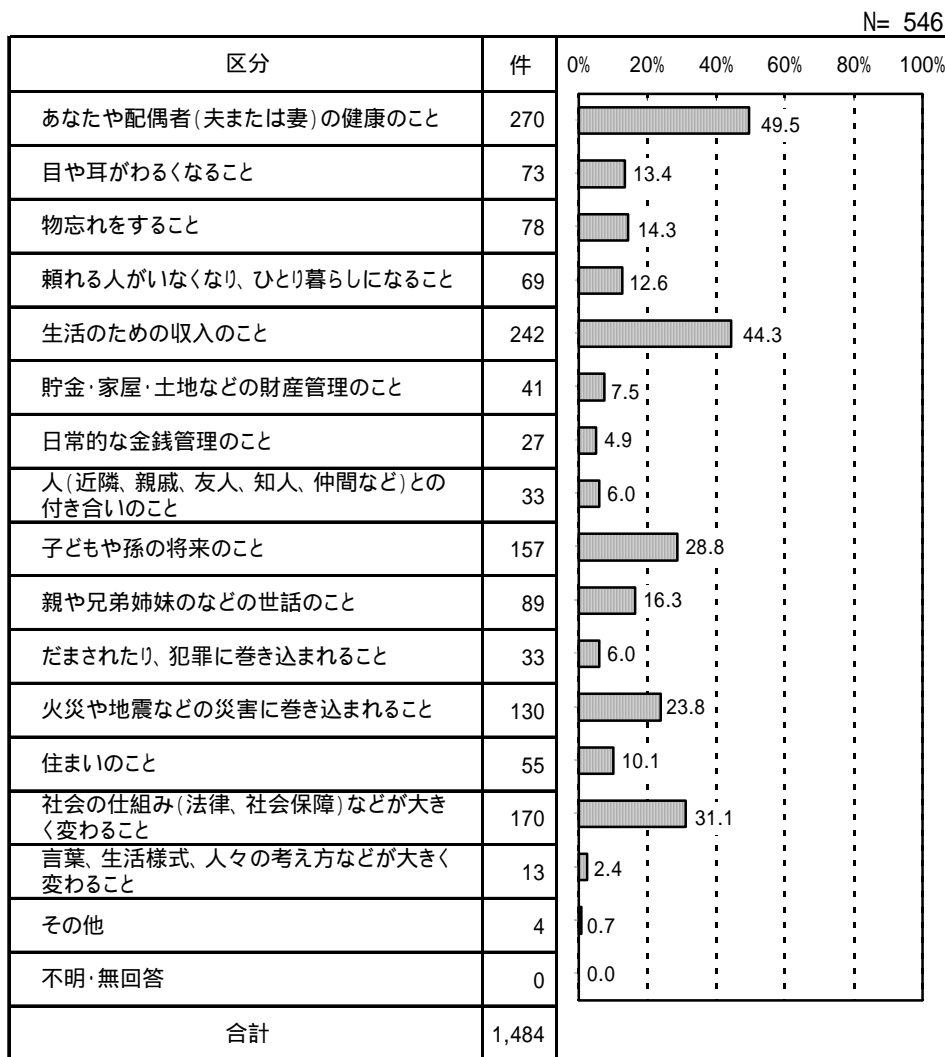
「ガン・高血圧などの生活習慣病について」が278件(50.9%)と最も高くなっており、次いで「運動不足と感じている」が239件(43.8%)、「寝たきりや認知症のこと」が148件(27.1%)と続いています。



※アンケート調査結果のグラフで「N」とはサンプル数(=回答者数)を表しています。

日常生活について不安に感じていること

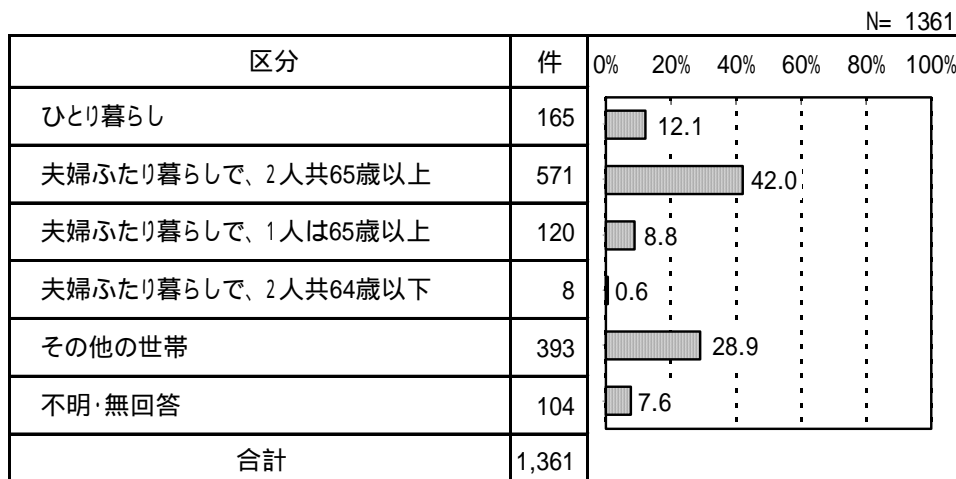
「あなたや配偶者の健康のこと」が 270 件（49.5%）と最も高くなっており、次いで「生活のための収入のこと」が 242 件（44.3%）、「法律・社会保障などの仕組みが大きく変わること」が 170 件（31.1%）と続いています。



(3) 調査の結果の概要 (要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の市民)

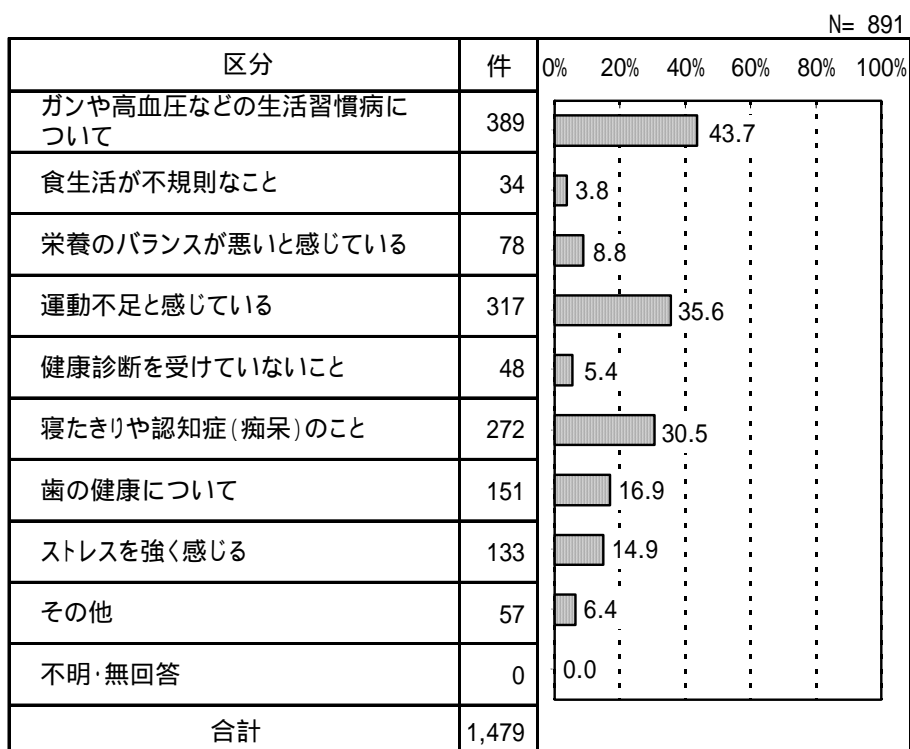
家族構成について

「夫婦ふたり暮らしで、2人共に65歳以上」が571件(42.0%)と最も高くなっています。



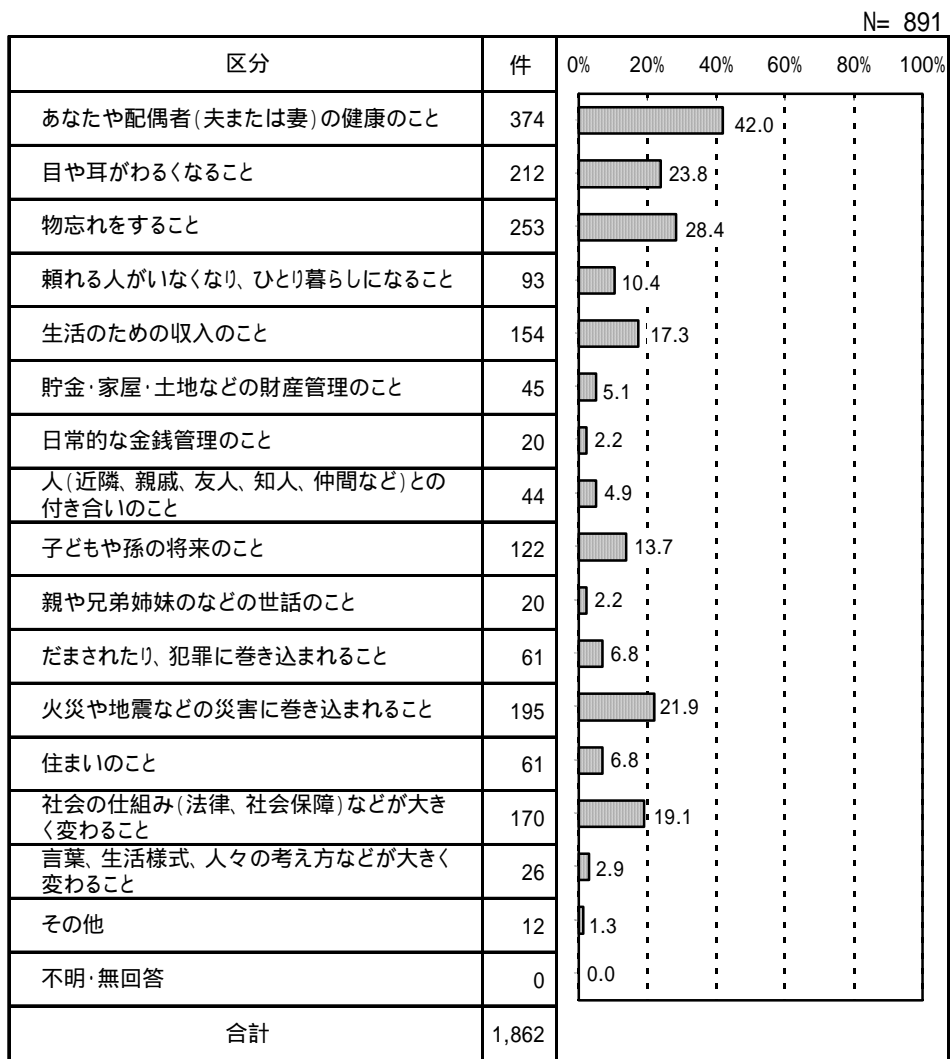
健康について不安に感じていること

「ガンや高血圧などの生活習慣病について」が389件(43.7%)で最も高く、「運動不足と感じている」が317件(35.6%)、「寝たきりや認知症のこと」272件(30.5%)がそれに続いています。



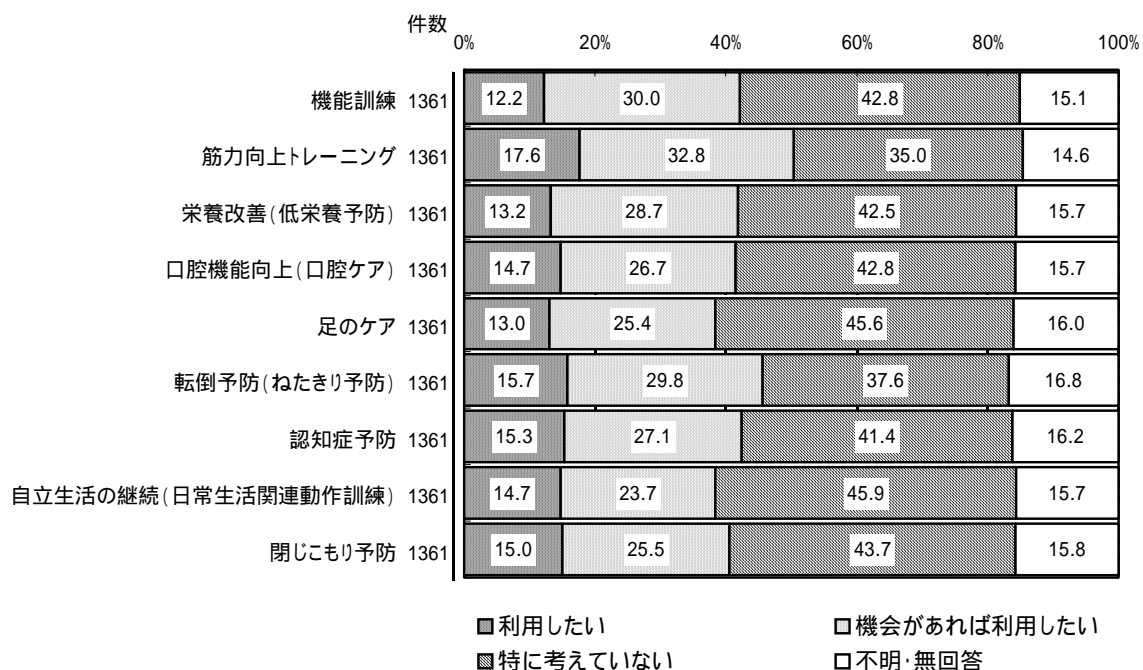
日常生活について不安に感じていること

「あなたや配偶者の健康のこと」が 374 件（42.0%）で最も高く、次いで「物忘れをすること」253 件（28.4%）、「目や耳がわるくなること」212 件（23.8%）がそれに続いています。



介護予防サービスの利用意向

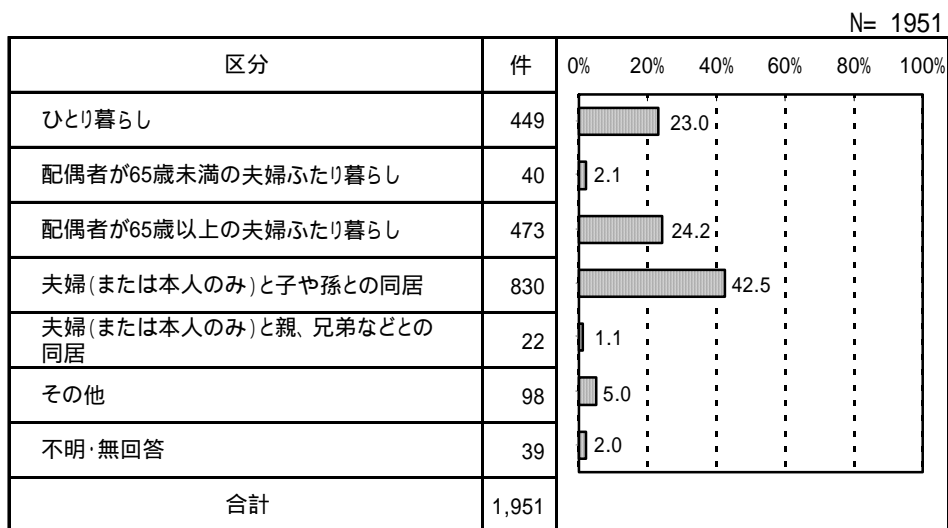
「筋力向上トレーニング」について、約5割の人が「利用したい」又は「機会があれば利用したい」と回答しており、介護予防サービスの中で最も利用意向が高くなっています。



(4) 調査の結果の概要 (要支援・要介護認定を受けられた方)

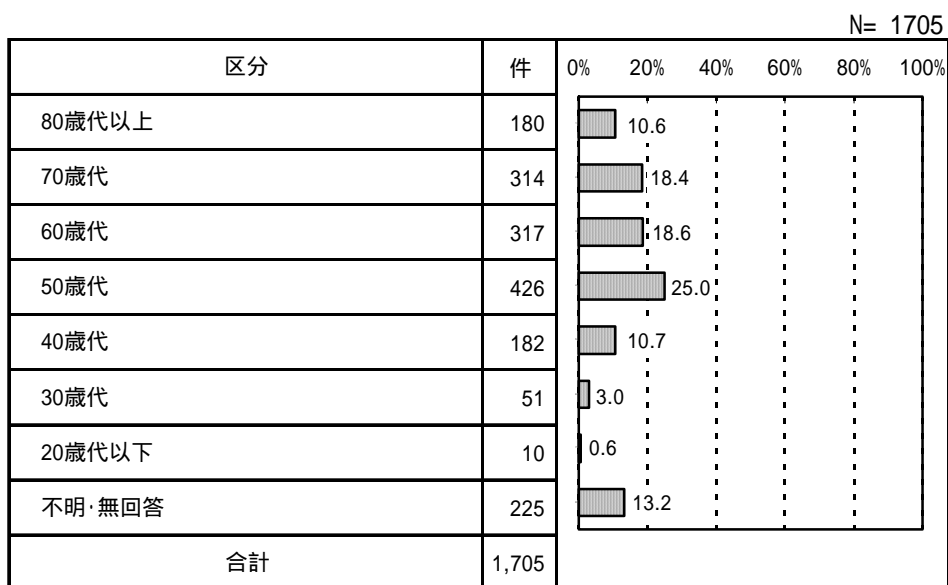
家族構成について

「夫婦（または本人のみ）と子や孫との同居」が 830 件（42.5%）と最も高くなっています。



介護者の年齢

「50歳代」が 426 件（25.0%）と最も高くなっています。



要介護認定結果について

「予想どおりの認定結果であった」が 1,294 件（66.3%）と最も高くなっており、次いで「予想より軽い認定結果であった」が 490 件（25.1%）、「予想より重い認定結果であった」が 68 件（3.5%）と続いています。



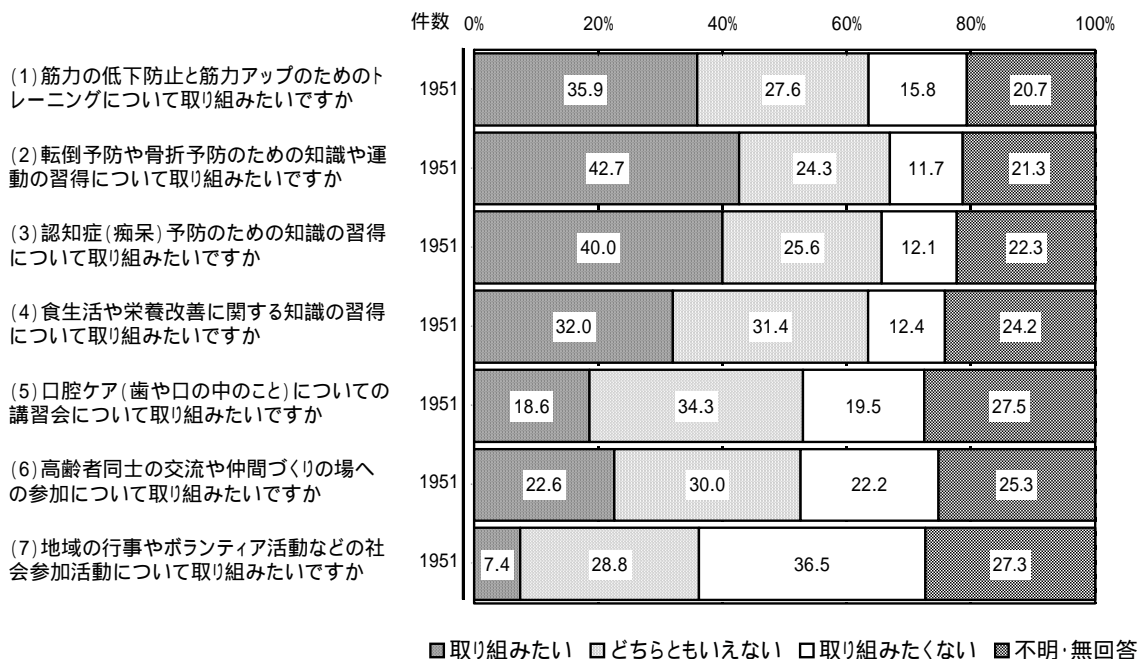
介護保険サービスの利用状況

「現在利用している」が 1,493 件（76.6%）と最も高くなっており、次いで「以前から利用していない」が 160 件（8.2%）、「以前は利用していたが現在は利用していない」が 118 件（6.0%）と続いています。



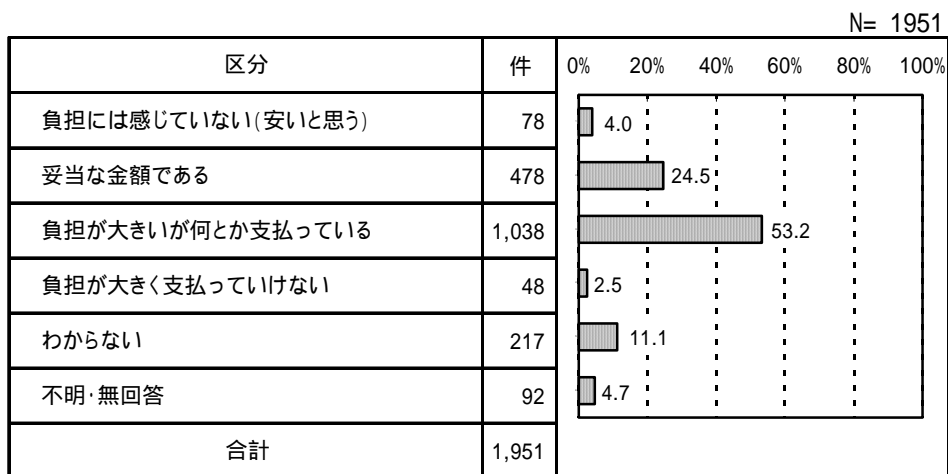
介護予防サービスの利用意向

「転倒予防や骨折予防のための知識や運動習慣の習得」について、約4割以上の方が「取り組みたい」と回答しており、介護予防サービスの中で最も利用意向が高くなっています。



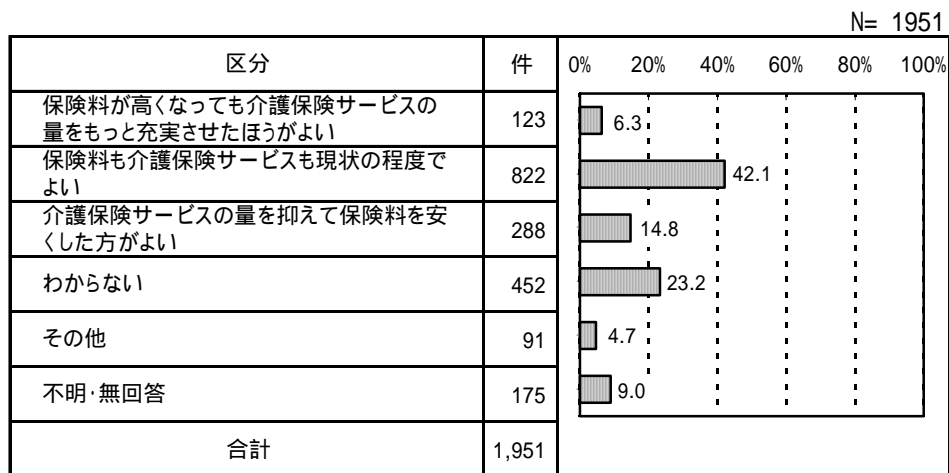
現在の保険料について

「負担が大きいが何とか支払っている」が1,038件(53.2%)と最も高くなっており、次いで「妥当な金額である」が478件(24.5%)、「わからない」が217件(11.1%)と続いています。



今後の保険料について

「保険料も介護保険サービスも現状の程度でよい」が 822 件（42.1%）と最も高くなっており、次いで「わからない」が 452 件（23.2%）、「介護保険サービスの量を抑えて保険料を安くした方がよい」が 288 件（14.8%）と続いています。



(5) 奈良市民意識調査結果

今後の介護保険や老人保健福祉施策について

今後の介護保険や老人保健福祉施策について何が重要かとの設問では、「自宅で生活が続けられるような居宅サービスの充実」が最も多く 53.3%、次いで「安心して入所できる施設サービスの充実」が 50.0%となっています。

